



日本キリスト教連合会 委員長  
渡邊 純幸

## 絆 (きぎずな)

「これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきぎずなです。」

(コロサイ三章一四節)

「きみの名は」で有名な劇作家の菊田一男氏は、若い頃、赤貧の中に暮らしていた。或る冬の雪の降る夜に、仕事がなく、空腹のまま、火鉢一つない寒い下宿に帰る途中、牛飯屋の屋台（といっても今の若い人には判らないが井飯の上に牛肉を煮た汁をかけただけの、当時の最も粗末な安い屋台）の灯りを見つけ、跳び込んで夢中で食べました。しかし一杯では若い身空の青年の空腹はとも癒されませんが、もう一杯食べるお金は既になく、そんな青白い、痩せた青年をみていた牛井屋の親父が、「学生さん、あいにく今日は大雪で、客が少なくて困っていたんだ。すまねえが、一杯助けてやってくれねえか!」と言って、もう一杯ご馳走してくれた。その帰途、「雪の上に涙がこぼれて仕方がなかった」

(霜山徳爾著作集第6巻「多愁多恨亦悠々」より)

若き日の菊田一夫氏が、屋台の親父さんから受けた言葉とその優しさは、博愛的でも、強制的でも、義務的でも、はたまた、権利の主張でもなく、

もちろん相手を見下げたものでもありませんでした。それは、相手を受け入れるものでした。そして、この菊田一夫氏が止めどもなく涙を流したのは、まさに、お金が無く、見知らぬ青年に対して、より強い立場にあった屋台のおじさんの自分を無条件で、同じ高さまで引き上げ、受け入れた心でしょう。あるいは、自分が金のない青年の立場まで降りてきた心ということかも知れません。

三月十一日に起った未曾有の「東日本大震災」を契機に、メディア等をおして、「絆」「つながり」の心がクローズアップされています。この「きぎずな」は、聖書においては、紐や帯を意味するだけでなく、複数のものを一つにまとめる愛がなくてはなりません。あの菊田青年が若き日に受けた上からでもなく、恩義がましくもなく、ひとり人間として大切にされる大きな愛を育みたいものです。

被災地へ、被災者への善意の救援が世界中から、日本全国から、届けられています。私たちも、困難な被災者とのきぎずなを、愛という帯で一つにつながり、共々に支えあい、強めあい、深めあいましょう。

# こんなことをしています！



日本キリスト教連合会はキリスト教に属するほとんどの教派・教会が加わって、その緊密な協力の下で運営されている団体です。これほど間口の広い団体は他にはないのですが、働きが地味であるため知名度はイマイチです。今回はその働きの一部をご紹介します。

日本キリスト教連合会は、キリスト教界を代表して、宗務行政を管轄する文化庁に対して窓口の役割を果たしています。日本の宗教界全体としては、「日本宗教連盟」が組織されています。日本キリスト教連合会もその一員として責任を果たしています。

日本キリスト教連合会の目的は、所属する教派・教会の、宗教法人としての適正な法人事務の向上に寄与することですが、同時に日本国憲法が保障する信教の自由と政教分離の原則の下で、キリスト教文化の振興を図ると共に、信教の自由を守るためにキリスト者として積極的に発言するという責任を託されていると信じています。

\*

具体的には、次のような活動をしています。

## 1. 宗務行政への取り組み

日本宗教連盟、東京都宗教連盟、宗教法人審議会委員等と協力して、広く宗務行政全体と社会的倫理的な課題について声を上げること、また共に学ぶことを目指しています。

最近では1月に「宗教と税制シンポジウム」が開催され、税制改正での宗教の公益性について講演がなされました。同時に国に対して要望書を提出しました。2月には「宗教と生命倫理シンポジウム」が開催され、代理出席の問題点を共に考えました。

## 2. 法人事務・会計実務研修会の開催

毎年10月に日本キリスト教連合会が主催

して開催する研修会です。伊豆あるいは箱根という魅力的な会場で、2泊3日で行います。非常に密度の高い、実践的な学びの機会です。

## 3. 宗教法人実務の相談窓口

公益法人に関する法律が改正になったりと、宗教法人を取り巻く環境も変わろうとしています。境内地・境内建物の取得や税制の問題など、慣れない事務手続きが次々と押し寄せてきます。わからないこと、疑問に思うことがありましたら、お気軽にご相談ください。連絡先は事務局です。こちらでお答えする担当者をご紹介します。

## 4. 年2回の定例会を開催

テーマは、今直面しているホットな課題を取り上げます。宗務行政だけでなく、憲法問題や生命倫理、またキリスト教界で注目を集めている話題などを取り上げ、実際に携わっている方を講師としてお招きし、語っていただきます。定例会のご案内は、事前にお送りいたしますので、ぜひご参加ください。

## 5. 年6回の常任委員会の開催

隔月で常任委員9名が集まり開かれます。文化庁から、また日本宗教連盟や東京都宗教連盟の会合から、宗務行政に関するさまざまな情報が寄せられ、報告されます。そうした情報を共有し、必要な事は審議、決定します。同時にキリスト教界としての意見や要望を準備します。研修会や定例会についての相談や準備なども、常任委員会で行われます。

# 講演



## 新しい聖書翻訳の動向

講師： 渡部 信 氏 (財団法人日本聖書協会総主事)

津村俊夫 氏 (新日本聖書刊行会翻訳編集担当理事)

2010年4月30日(金)午後1時30分～3時45分 日本基督教団4階会議室

今回の講演会では、日本語訳聖書として広く用いられている新共同訳聖書と新改訳聖書が、期せずして同時期に改訂作業を開始しておられますので、それぞれの翻訳作業を主導しておられる渡部氏と津村氏をお迎えしてお話しをお聞きすることにいたしました。翻訳方針や新しい聖書の特色など、興味深い内容のご講演を伺うことができました。

### ▼渡部信氏の講演から

聖書協会の使命は、もちろん原典に忠実な聖書を翻訳することも含まれますが、第一に教派を超えて広く「教会の聖書」を届けることであると理解しています。

翻訳は文語訳聖書に始まり、口語訳を経て現在の新共同訳聖書に至っています。新共同訳聖書はカトリック教会と共同で翻訳するということが大きな特徴となりました。すべての教派と共に聖書を翻訳するというドリーベルゲン宣言によって、新共同訳聖書は教派を超えた広がりを持つようになりました。第二聖典・外



から発展した新たな翻訳聖書を発行するために、一般社団法人として昨年スタートいたしました。

前身の新改訳聖書は1961年に翻訳作業を開始し、足かけ9年を費やし1970年に出版されました。その後、2回の改訂がなされ、今日に至っております。

新しい翻訳は次の7つの原則に基づいて進められます。聖書信仰に基づき、委員会訳であること。原典に忠実であり、文学類型に則って、行き過ぎた意訳や敷衍訳を排し、それぞれの文学類型にふさわしく訳出する、現代人に理解できる時代に適応した訳であること、今後とも日本語の変化に応じて改訂を行うこと。こうしたことを基本に置いています。

今回の改訂は、日本語の変化もその理由の一つですが、聖書学の進展が大きな要因となっています。また言語理論の変遷も改訂の理由としてあげられます。遠い将来を見据えながら改訂作業に当たっています。

典を加えたことも特徴の一つです。

新共同訳聖書の翻訳作業は、途中で翻訳理論を変更するということもあり、18年の歳月を費やしました。

新しい翻訳聖書の名称はまだ決まっておりません。標準訳を目ざそうと考えております。翻訳理論はスコポス理論を採用しています。

▼津村俊夫氏の講演から  
新日本聖書刊行会は、新改訳聖書

# 第36回 法人事務・会計実務研修会



2010年10月12日(火)～14日(木) 富士箱根ランド

秋の気配を感じさせる箱根で、36回目となる「法人事務・会計実務研修会」が開催されました。集中した学びとともに、教派を越えた交わりを楽しむことができました。研修は3クラスに分けて、以下のような内容で研修いたしました。

## A. 法人事務クラス 佐藤丈史先生

講師は行政書士で、日本宗教連盟の事務局長として宗務行政に精通している佐藤丈史先生が担当されました。

教会の直面する課題の大部分は、事前にわかっている避け、防ぐことのできる問題です。そのような視点から、法人事務で留意しなければならないポイントを押さえて学びました。そのいくつかをご紹介します。

1. キリストのからだとして教会を建て上げるために、法人の適正な管理運営を行うことは「証し」のためにもきわめて大切なことです。
2. 問題が起きている教会は、まずその原因を探らなければなりません。そこから解決の糸口が必ず見つかるはずですが。
3. 単体法人格、あるいは包括法人格の設立を旨ざしている教会が、押さえておかなければならないいくつかの要点があります。
4. 日常業務の精度を上げることが、そのまま教会の自浄作用として機能します。そのためにも適切な業務遂行の心構えが大切です。
5. 宗教法人の管理者には、非課税や節税の基礎知識が不可欠です。
6. 教会から多く相談を寄せられる「教会の労災保険」「墓地について」学びました。
7. 今マスコミや宗教界で問題になっている「宗教法人の事業の実態」「不活動宗教法人の危険性」を理解しておく必要があります。
8. 一般社団法人・一般財団法人について、

4つの注意点を解説してもらいました。

## B. 教会と会計・税金クラス 長岡淳三先生

繁田勝男先生からバトンタッチして、今回から税理士の長岡淳三先生が担当されました。

最近になって教会からの税務相談、決算書の作成依頼が多くなってきています。それを踏まえて、この研修会では具体的な事例を中心に、わかりやすく解説されました。

例えば、教会で日々に行われる取引を例示し、これを複式簿記によって総勘定元帳に記帳し、残高試算表及び貸借対照表、損益計算書を作成する手順を学びました。次に、収支計算書、正味財産増減表、財産目録の作成という一連の財務諸表の作り方を、順を追って説明してもらいました。

教会事務で抱えている質問、疑問には十分時間を取って、丁寧に教えてもらいました。

## C. 会計事務クラス 計良祐時先生

このクラスは少人数で、パソコン前に置いて実習しました。ここでは会計ソフト「PCA宗教法人会計」を導入するための具体的な指導がなされ、それぞれの実状に合ったソフトの設定のやり方が解説されました。法人によっては公益部門と収益部門とを区別する必要もあり、組織の実態に合わせた運用についての解説もしてもらいました。またエクセルの実践的な使用技術を学びました。



写真で紹介する「法人事務・会計実務研修会」、それぞれのクラスの様子です

# 定例会

2011年2月10日 午後1時30分～3時30分 日本福音ルーテル東京教会

## マザー・テレサのスピリットとは

講師：千葉 茂樹 氏

講師紹介 1933年生まれ。日本大学芸術学部卒。映画監督として活躍。ドキュメンタリー作品「愛の養子たち」を監督。キネマ旬報賞など数々の賞を受賞している。

映画制作を通して、マザー・テレサから多くの感動を与えられた。

撮影を始めようとする私たちに「いっしょに祈りましょう」と告げるマザー・テレサは、祈ったことでもない日本人スタッフに、「祈りからの始まり」を体験させてくれた。

輸送トラブルや、思うような映像が撮れない葛藤など、いくつもの難題を抱える私たちにマザー・テレサがかけてくれた言葉は、深く心を揺すぶった。それは、誓願を受けようとするシスターたちに、スクリーンを通して観てくれる日本の人々へのメッセージであると感じた。

「祈りのある生活」とは、人として生きようとするとき、神に向かって問いかける生き方であるとマザー・テレサは教えてくれた。自分に与えられた役割や職業などを神に問いかけるとき、生かされていることへの感謝に気づかされる。そこに、生きることへの大きな「可能性」を見出すことができたように思う。



## 2011年秋 第37回 法人事務・会計実務研修会



ご好評を頂いております「法人事務・会計実務研修会」は、今年2011年秋に第37回の研修会が開催されます。会場は富士箱根ランドを予定しております。

昨年、参加を見送られた教団・教会の皆さまも、今回はぜひご参加ください。開催は10月を予定しております。ご案内は8月を目途にお送りいたします。

### 山北宣久前委員長から、渡邊純幸新委員長に 2011年2月に、日本キリスト教連合会委員長が交代



渡邊純幸委員長

日本基督教団の総会議長の重責を担いながら、長らく日本キリスト教連合会をリードして下さった山北宣久先生は、2月10日をもって委員長を辞任されました。今後は青山学院院長の働きに専念されます。代わって、日本福音ルーテル教会総会議長の渡邊純幸先

生が新委員長に就任されました。これに伴って、日本キリスト教連合会の事務所は市ヶ谷の日本福音ルーテル教会内に移転しました(連絡先は下記の通りです)。山北宣久先生は今後、顧問として協力していただきます。

#### ●日本キリスト教連合会役員 (2011年度)

- 委員長 渡邊純幸 (日本福音ルーテル教会)
- 常任委員 相澤牧人 (日本聖公会)
- 川勝高宏 (日本バプテスト連盟)
- 佐藤丈史 (浜田山キリスト教会)
- 立野泰博 (日本福音ルーテル教会)
- 広瀬 薫 (日本同盟基督教団)
- 藤盛勇紀 (日本基督教団)
- 前田万葉 (カトリック中央協議会)
- 矢木良雄 (イムマヌエル総合伝道団)

\*日本キリスト教連合会へのお問い合わせは162-0842  
東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会内「日本キリスト教連合会」へ。

#### ▼日本キリスト教連合会2010年度活動報告

- 4月30日 2010年度総会  
／講演会(講師:渡部信氏、津村俊夫氏)
- 5月28日 第1回常任委員会
- 7月16日 第2回常任委員会  
／7月の定例会はお休みしました
- 9月7日 第3回常任委員会
- 10月12日~14日  
第36回法人事務・会計実務研修会
- 11月1日 第4回常任委員会
- 2月10日 第5回常任委員会  
／定例会(講師:千葉茂樹氏)
- 3月28日 第6回常任委員会